



かわにし

川西高等特別支援学校
学校だより 第32号
令和5年10月6日

より地域に根ざした学校に向けて～オープンスクール～

教頭 村山 哲

市内の小中学校・特別支援学校の生徒・保護者、教育機関等、多数の方から参加いただき、7月4日、9月12日両日にオープンスクールを開催いたしました。

学校の概要、進路指導等の説明の後、1回目は国語・数学、家庭の学習参観、2回目は当校の特色でもある職業技能の学習を見学・体験していただきました。当校の様子や学習内容について理解していただく貴重な取り組みとなりました。

特に2回目は当校の生徒が自分たちの担当している職業技能班の仕事内容について説明をしたり、体験に参加した中学生や保護者等の皆様に丁寧に教えたりする姿が多く見られました。中学生に説明し、取り組む姿を確認し「上手、上手」と声を掛ける生徒。保護者や関係機関の方に、普段やっている作業を実演しながら紹介している生徒。多くの見学者に戸惑うことなく作業に集中して取り組んでいる生徒など、一人一人の成長を感じることもできました。

参加いただいた生徒、保護者、関係機関の皆様のご感想を紹介いたします。

- ・国語、数学での実生活に活用できる題材の学習の様子やグループ別の家庭の学習の様子が分かり良かったです。
- ・生徒の皆さんが落ち着いて授業を受けているのが印象的でした。
- ・先生方がパワーポイントやイラストを提示していて、視覚的に理解するための工夫がされていて素晴らしいと思いました。
- ・生徒の皆さんが熱心に学習を行っている様子を見て、こちらへの進学を希望している3年生も意欲が沸いてきたようです。
- ・印象的だったのが、生徒の皆さんの表情が良かったことです。自分の役割をきちんとわかって取り組んでいるのだと感じました。
- ・クラフト班の作業工程がとても細かく、その生徒さんができることをやれる環境でやっていることが、とても素晴らしいと思いました。1年以上きちんと学ぶことができるということがわかりました。家でもっとできることを増やせるよう、考えるきっかけになりました。
- ・生徒の皆さんの説明がわかりやすく作業の内容がよくわかりました。
- ・実際の職業訓練の様子がみられて良かったです。生徒のみなさんが一生懸命練習したり、作業を繰り返したりして習得したんだなあと感じられました。
- ・子供たちが一生懸命取り組んでいる姿がとてもステキでした。
- ・一人一人に寄り添った授業内容で良かったです。細やかな配慮があり、安心できました。



思いやりのある学校を目指して

生徒指導主事 井口 哲朗

日頃より、本校の生徒指導の取り組みにご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。今年度も学校生活において、生徒たちの安全・安心を第一に考え、心の不安を見逃さぬよう全職員一丸となって努めているところでございます。年度初めには、全校生徒が気持ち良く学校生活を送るために、『相手の立場に立った行動や言動を心掛ける＝思いやり』と確認をいたしました。ここでは、前期の学校での様子を一部ご紹介いたします。

①思いやりに気づき、それにどう応えていくか

先日、道徳の授業で「他者からの思いやりに気づき、感謝の気持ちを持つと共に、それにどう応えていくか」というテーマで行われた時のことです。授業後の生徒の感想には、「感謝することの大切さがあった」「今後は、優しい人や相手から頼られる人になりたい」等々ありました。また、授業後には早速困っている友達のお手伝いをしてくれた生徒がいました。自然にそういったことをしてくれた姿に成長を感じ、大変感銘を受けました。

全校生徒に関しましても、これまでも学級内や全校集会等の発表時において言葉に詰まってしまった発表者に対して、気持ちを乱すことなく静かに待つ様子が見られています。日々の生徒たちの振る舞いに、優しさ、思いやりを感じているところです。

②「いじめを見逃さないこと」を目標に

当校では1学期に『いじめ見逃しゼロ集会』を開きました。そこでは、各自で考えたいじめを見逃さないための標語を持ち寄り、グループ内で発表をしました。友人の意見を聞き、自分自身、今年1年いじめを見逃さないためにどのような行動や人との関わり方ができるかを考えました。最後には、安全・安心な学校作りのためには皆の協力が必要で、周囲の人に思いやりを持って学校生活を送りましょうと確認いたしました。

また、今年度に入り、SNSの不適切な使い方について指導をする場面がありました。スマートフォン、SNSの使い方については、学校でもスマホ・ケータイ安全教室等を開催し指導しているところでございます。ご家庭でも、今一度、使用法や年度初めにお決めいただいたご家庭での約束事について、ご確認いただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、生徒たちの健やかな成長に向けて、ご家庭、学校、社会が連携をしながら、あらゆる物事に取り組んでまいりたいと思っております。心配なことがございましたら、いつでも学校にご連絡ください。



～『第1回いじめ見逃しゼロ集会』の様子～ （ R5.5.26 に実施 ）

各班に分かれ、いじめを見逃さないための標語や、今年度の取り組み目標を発表しあいました。

長岡宿泊学習をふりかえって

2学年主任 小杉 直美

去る7月13・14日の2日間、2年生は1泊2日の日程で長岡市へ宿泊学習に行きまして。この学習のねらいは、「商用施設、宿泊施設等の利用の仕方について体験を通じて身につける」、「施設利用や買い物体験を通して、余暇の過ごし方の幅を広げる」、「調べ学習や係活動を仲間と行うことで、協力して活動したり、その中で自分の役割を果たしたりする」という3点でした。

行程については、1日目は余暇体験、2日目は職場見学を中心として計画しました。

1日目は、十日町駅から、ほくほく線と上越線乗り継いで長岡駅に移動し、路線バスに乗って、リバーサイド千秋に行きました。決められた予算内で買い物をし、フードコートで昼食をとりました。その後は、映画班はTジョイ長岡で映画鑑賞、スポーツ班は長岡ドームでのスポーツ体験を楽しみました。宿泊施設は、長岡グランドホテルでした。部屋の使い方や自由時間の過ごし方、マナーを守って施設を利用することなど、体験を通して学ぶことができました。快適なホテルでの時間でしたが、家族のあたたかさや自宅の心地よさを改めて実感した生徒も多かったようです。

2日目は職場見学として、長岡グランドホテル、越後交通Eプラザビル、カフェ「く・る～む」を訪問しました。実際の仕事の様子を見学させていただき、説明をうかがいました。質問にも丁寧に答えていただき、学びを深めることができました。班ごとに昼食をとり、上越線と飯山線を使って、十日町駅まで帰ってきました。

生徒にとっては、当校で経験する初めての宿泊行事でした。心配や緊張を感じていた生徒も多かったことと思います。ご家庭でのきめ細やかなサポート、荷物準備などたくさんのご支援をいただきました。本当にありがとうございました。今回の経験を今後の生活に活かしていってほしいと思います。



職業技能の学びを成果として形にする

～新潟県特別支援学校職業技能検定とアビリンピックにいがた～z

職業技能検定担当 笠井 敬祐

新潟県内の特別支援学校では毎年、新潟県特別支援学校職業技能検定を実施しています。主催は、新潟県特別支援学校長会です。当校では夏休み前に清掃部門の検定を、冬休みに接客部門の検定を行っています。

今年度の職業技能検定清掃部門は7月19日に、清掃・介護班に在籍する5名の生徒が参加しました。ビルクリーニングで使用する用具(ダスタークロス、モップ、掃除機)のうち、選択した1つを使用して、4m×4mのエリアを決められた手順で作業します。1級から10級までのグレードで評価されますが、全ての生徒が1級から4級として評価されました。

9月9日には、第19回新潟県障害者技能競技大会(アビリンピックにいがた2023)が新潟市で開催されました。当校からは、清掃・介護班の生徒2名がビルクリーニング部門に参加しました。この大会では、2種類の部屋を決められた手順と用具で清掃し、早さと正確さなどの観点で評価が行われます。競技の結果、当校から出場の生徒は銀賞と銅賞を獲得することができました。(10名出場のうち2位・3位相当)

職業技能検定もアビリンピックも、自分自身が身に付けてきた技術を客観的に評価してもらう良い機会となります。「まわりの人から自分の仕事はどう見えるのか」を知る機会として今後も積極的な参加を呼びかけていきたいと思います。

写真：アビリンピックにいがたでの出場生徒の競技の様子

